

諮問を踏まえ議論が必要と考えられる事項

社会の変化や学習指導要領の改訂等も見据えた教職課程の在り方

(1) 教職課程の在り方

- 令和3年・4年答申で示された目指すべき教師の姿から逆算して、養成・採用・研修を通じて生涯学び続ける教師としての能力形成という観点から、そのうち養成段階（特に学部）で担保すべき能力はどのようなものであるべきと考えられるか
- 社会変化を踏まえた学習内容や現場における教育課題[※]への対応について十分な能力を身に付けるために、教職課程においてどのような内容が必要と考えられるか
 - ※例：特別の支援を必要とする児童生徒への対応、質の高い探究的な学び、文理横断・文理融合的な学び、情報活用能力の抜本的向上 等
- 専門的な内容を幅広く身に付ける必要がある中、より多くの学生が教職課程を履修しやすくするために、ICTの活用を含め、どのような工夫が考えられるか
(教員養成フラッグシップ大学の取組や成果も勘案)
- 教員養成の質を確保しつつ、目指す教師像に向けて、教職課程のみならず学位プログラムの内容と相まった、各大学の創意工夫を活かした柔軟な教員養成を実現するためには、どのような課題があり、どのような改善が必要と考えられるか

(2) 教員免許制度の在り方

- 1人でも多くの学生に教職を志してもらうために、免許制度においてどのような課題があり、どのような改善が必要と考えられるか
(教職課程を履修したものの、「必要な単位数が多く全ての単位取得が難しかった」として免許取得に至らなかった学生の声が見られたことも勘案)
- 教職生涯を通じた能力向上への意欲を喚起するよう、特に将来学校現場において中核的な役割を担っていく教師に求められる資質能力に照らし、現行の専修免許状についてどのような課題があり、どのような改善が必要と考えられるか
(例：専修免許状により担保される資質能力、取得に当たり修得が必要な内容 など)
- 子供たちの主体的・対話的で深い学びを実現する、学びの高度専門職としての教師像の実現にむけて、教職大学院での学びの充実のために、どのような課題があり、どのような改善が必要と考えられるか
- 上記を踏まえた上で、現行の二種・一種・専修という免許種別の在り方について、どう考えるか

(3) 教師人材の安定的な確保に向けた教員養成の在り方

- 地域に求められる教師人材の安定的な確保に向け、地域ニーズに対応したカリキュラムの構築や、地域枠の活用等に関する大学と教育委員会の連携をどのように広げていくべきか
- 少子化の中、それぞれの地域で必要な教職課程を継続的に開設・実施できるようにするため、活用できる現行制度[※]はあるものの、さらにどのような方策が考えられるか

※共同教育課程の設置、他大学開設科目や連携開設科目を自大学開設の教職課程の科目とみなすことができる措置 等